

市バスお客様アンケート調査の結果について

1 調査の概要

本調査は、市バス旅客流動調査と同時期に実施しており、旅客流動調査では把握しきれない、より詳細な市バスの御利用状況について調査するものです。

なお、今回はコロナ禍での実施であったことから、コロナ前後の御利用状況をアンケートに盛り込むことで、御利用状況の変化についても調査しています。

また、バス停（15箇所）でのアンケート調査票の配布に加え、区役所・支所、地下鉄駅等の関係施設での配架や、どなたでもアクセス可能な専用WEBサイトを設置し、調査対象者の幅を広げたことで、より多くの方の御利用状況の把握に努めました。

(1) 調査期間

令和3年11月25日（木）～12月8日（水）までの14日間

(2) 調査票の配布方法

ア バス停での配布

○ 配布日時

令和3年11月26日（金） 午前7時～午後6時

11月28日（日） 午前9時～午後5時

○ 配布場所（バス停、15箇所）

北大路バスターミナル、金閣寺道、千本今出川、出町柳駅前、四条河原町、
四条大宮、祇園、清水道、京都駅前、京都駅八条ロアバンティ前、
西大路駅前、西大路四条、桂駅西口、竹田駅西口、中書島

イ 関係施設での配架

区役所・支所、地下鉄駅、案内所、定期券発売所、バス営業所に調査票を配架

ウ 専用WEBサイトの設置

アンケート調査票や、区役所・支所、地下鉄駅等に掲示した周知用ポスターに記載の二次元コードもしくはURLから、どなたでもアクセス可能な専用WEBサイトを設置

(3) 調査票の回収方法

アンケート調査票に同封した返信用封筒により郵送、もしくは専用WEBサイトを通じて回答

(4) 調査票の配布枚数及び有効回答数

ア 紙調査（バス停、区役所・支所等での配布分）

配布枚数：17,292枚

有効回答数：5,442件

イ WEB調査件数：2,552件

ウ 有効回答数（全体）：7,994件

エ 回答率：40.3%（7,994件／19,844件）

2 アンケートの調査結果

(1) 回答者の属性（問1～問4）

問1 お住まい、問2 年齢、問3 性別、問4 職業 を教えてください。

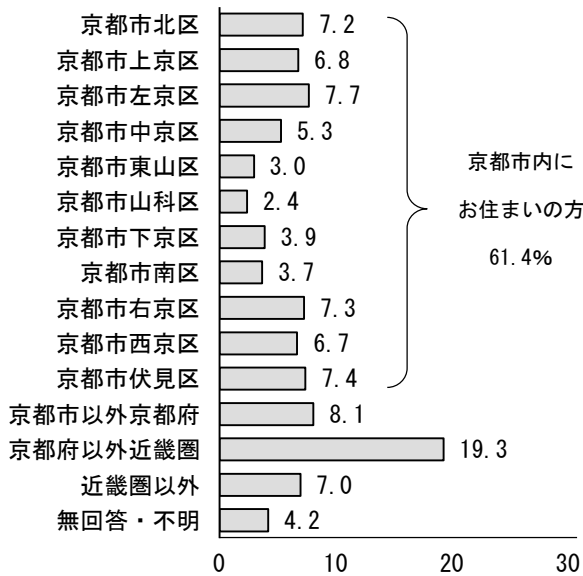
回答者のお住まいは「京都市内」が61.4%を占め、「京都市外」が34.4%となっています（問1）。

年齢は「40歳～59歳」が最も多く35.9%を占め、次いで「19歳～39歳」となっています（問2）。性別は「女性」が54.2%となっています（問3）。

職業は「会社員・公務員」が最も多く43.8%を占め、次いで「無職」、「パート・アルバイト」、「主婦・主夫」の順になっています（問4）。

問1：回答者のお住まい

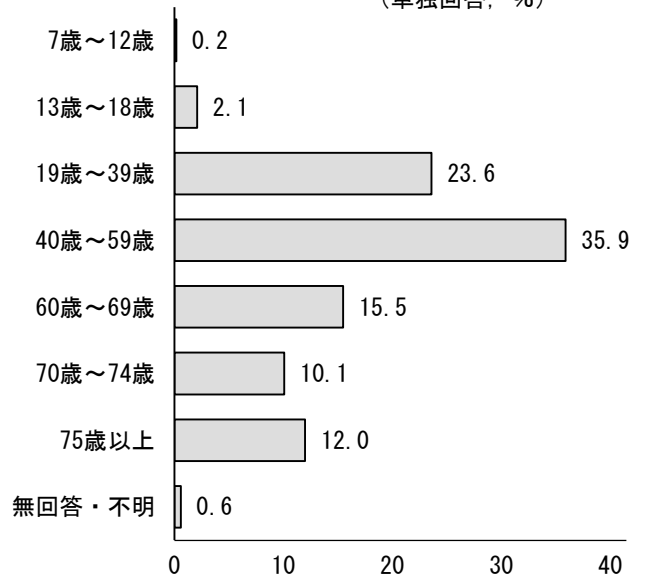
(単独回答, %)



(回答数=7,994)

問2：回答者の年齢

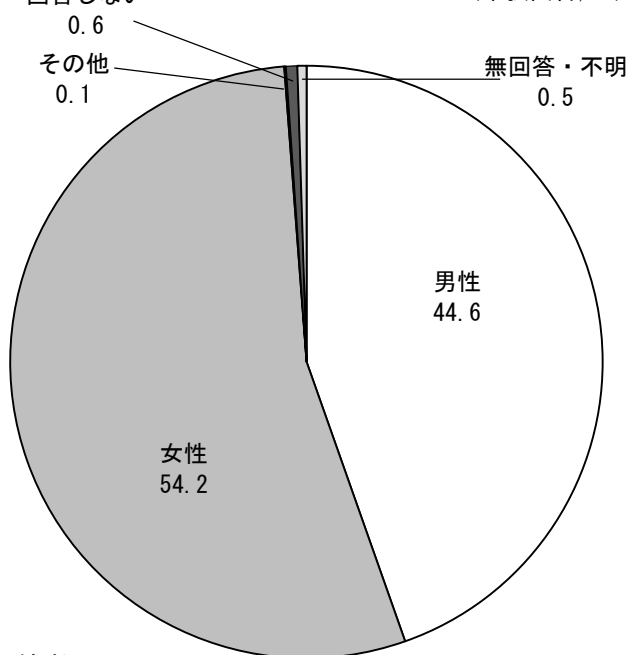
(単独回答, %)



(回答数=7,994)

問3：回答者の性別

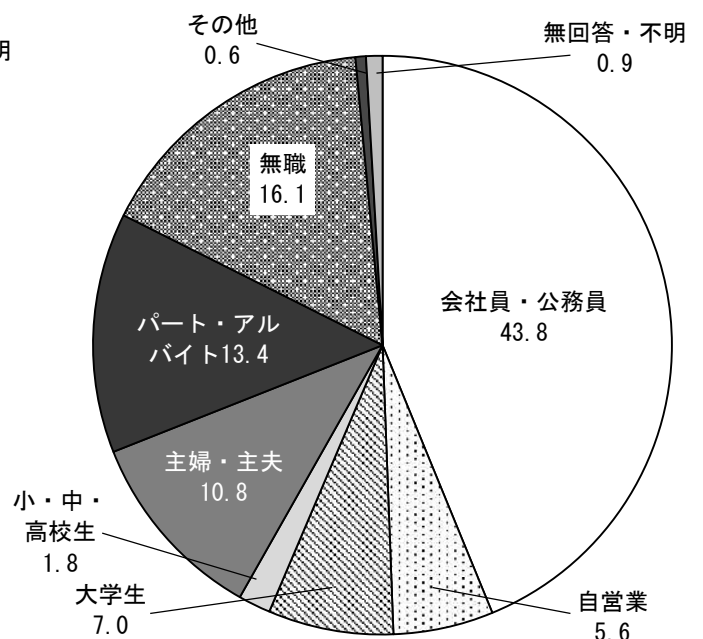
(単独回答, %)



(回答数=7,994)

問4：回答者の職業

(単独回答, %)



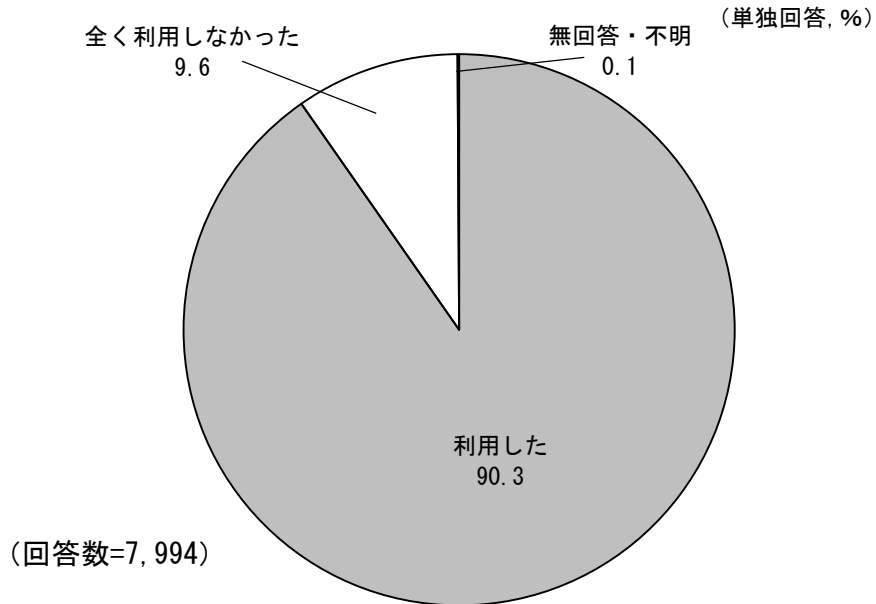
(回答数=7,994)

(2) 市バスの御利用状況（問5～問17）

問5 過去1年間の市バスのご利用状況を教えてください。

回答者の過去1年間の市バスの利用状況は、「利用した」が90.3%を占めています。

問5：過去1年間の市バスの御利用状況

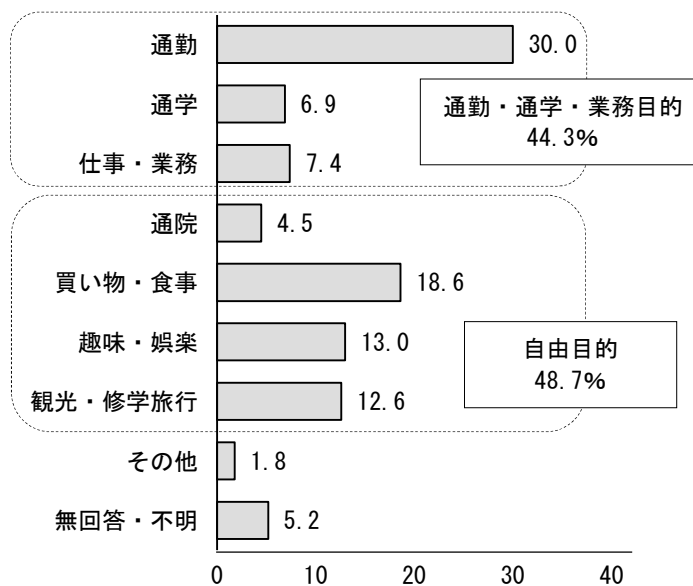


ア 最もよく利用された目的での御利用状況（問6～問12）

問6 市バスを利用された際の目的を教えてください。

回答者の市バスを最もよく利用された目的は「通勤」が30.0%と最も多く、次いで「買い物・食事」が18.6%となっており、通勤・通学・業務目的が約4割、自由目的が約5割という結果になっています。

問6：最もよく利用された目的 (単独回答, %)



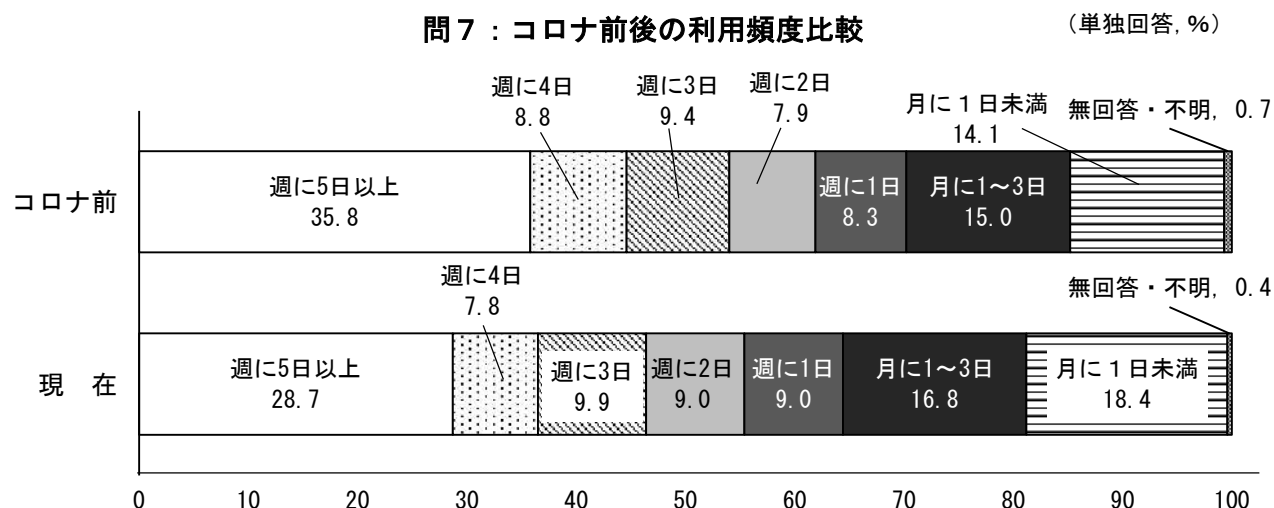
(回答数=7,222)

(ア) 観光・修学旅行を除く御利用状況（問7～問11）

問7 市バスのご利用頻度について、現在とコロナ前、それぞれ教えてください。
利用頻度に変化があった方は、その理由も教えてください。

「現在」の利用頻度については、「週に5日以上」が28.7%と最も多く、次いで「月に1日未満」が18.4%、「月に1～3日」が16.8%となっています。

「コロナ前」と比較すると、週に「5日以上」と「4日」の割合が減少し、週に「3日」以下の割合が増加しています。

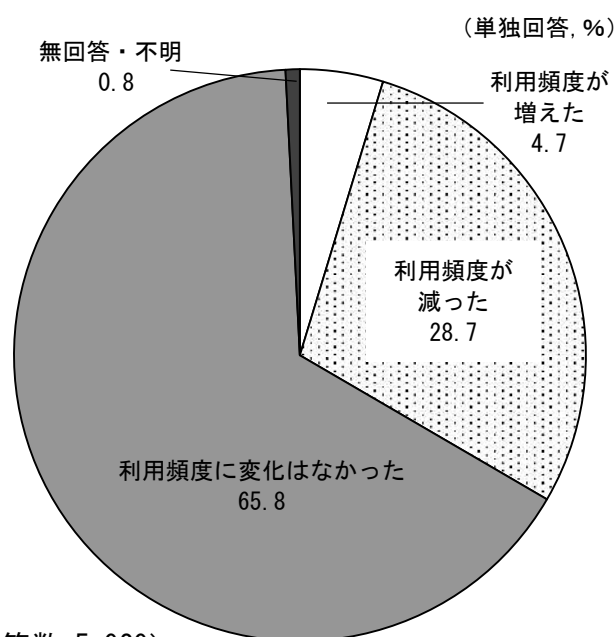


(回答数=5,929)

コロナ前後の利用頻度を個別に比較した場合、「利用頻度に変化はなかった」人が65.8%、「利用頻度が減った」人が28.7%となっています。

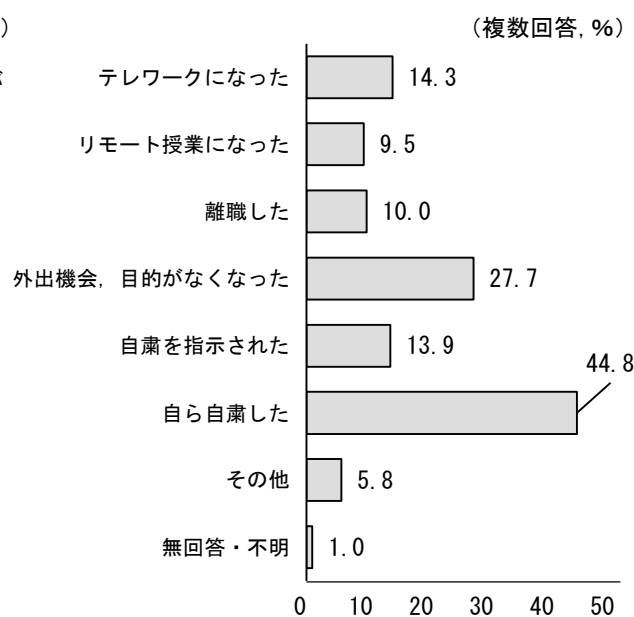
利用頻度が減った理由としては、「自ら自粛した」が44.8%と最も多く、次いで「外出機会、目的がなくなった」が27.7%となっています。

コロナ前後の市バス利用頻度の変化



(回答数=5,929)

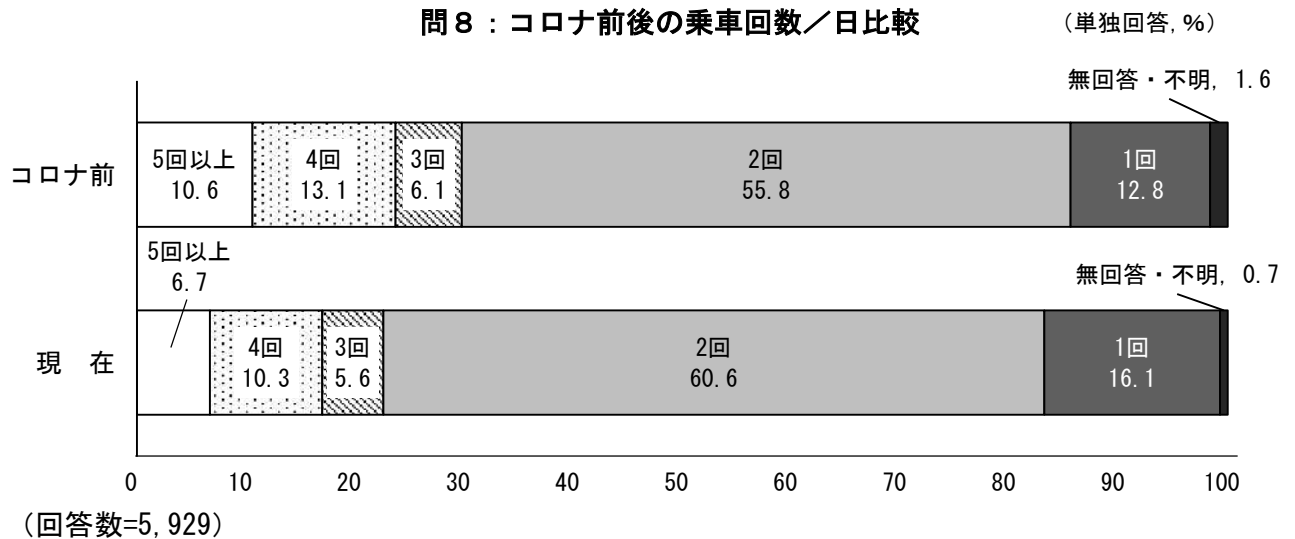
利用頻度が減った理由



(回答数=1,699)

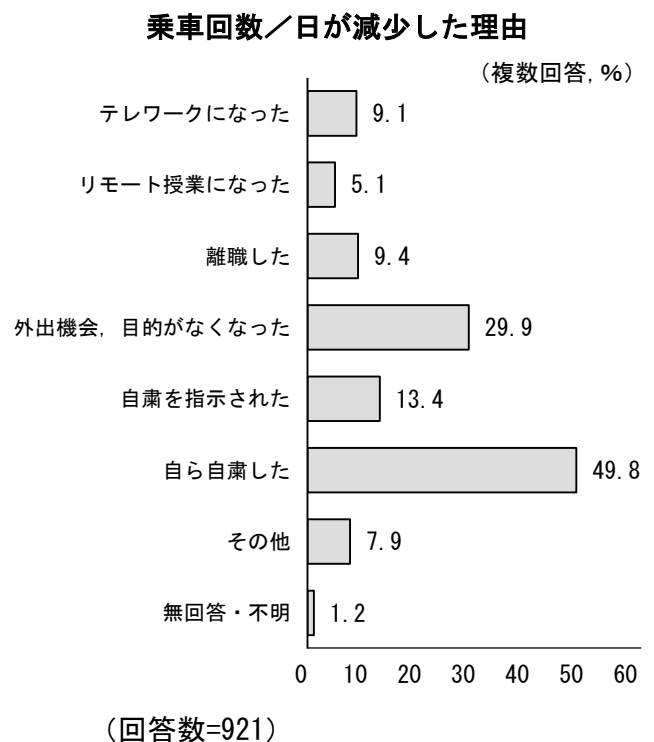
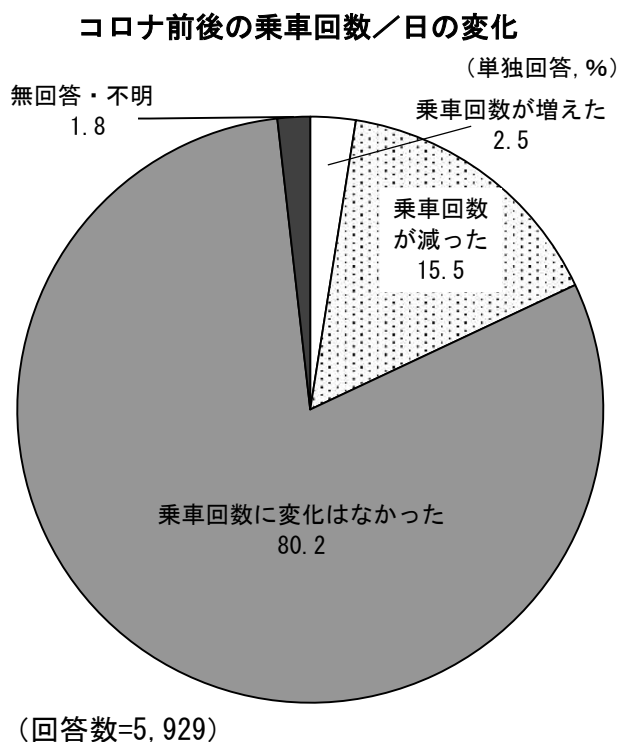
問 8 市バスを利用される際の1日の乗車回数について、現在とコロナ前、それぞれ教えてください。乗車回数に変化があった方は、その理由も教えてください。

「現在」の1日当たりの乗車回数については、「2回」が60.6%と最も多く、次いで「1回」が16.1%となっています。「コロナ前」と比較すると、「5回以上」、「4回」、「3回」の割合が減少し、「2回」以下の割合が増加しています。



コロナ前後の1日当たりの乗車回数を個別に比較した場合、「乗車回数に変化はなかった」人が80.2%、「乗車回数が減った」人が15.5%となっています。

利用頻度が減った理由としては、「自ら自粛した」が49.8%と最も多く、次いで「外出機会、目的がなくなった」が29.9%となっています。



問 9 市バスを利用される際の時間帯について、現在とコロナ前、それぞれ教えてください。

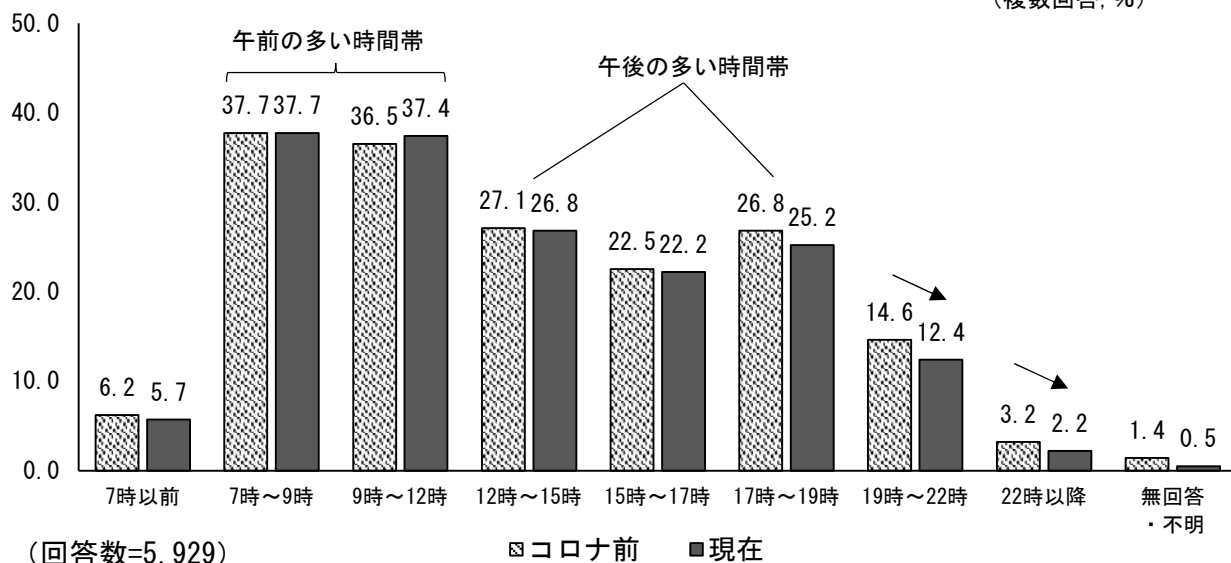
「現在」の利用時間帯について、「7時～9時」が37.7%、「9時～12時」が37.4%となっており、午前中の利用割合が、午後の時間帯と比べ高くなっています。

午後は「12時～15時」が26.8%、「17時～19時」が25.2%と利用割合が高くなっており、それ以降、時間が進むにつれ、利用割合が減少しています。

「現在」と「コロナ前」では、夜の時間帯の御利用が若干減少している以外、大きな変化は見られませんでした。

問 9 : コロナ前後の利用時間帯比較

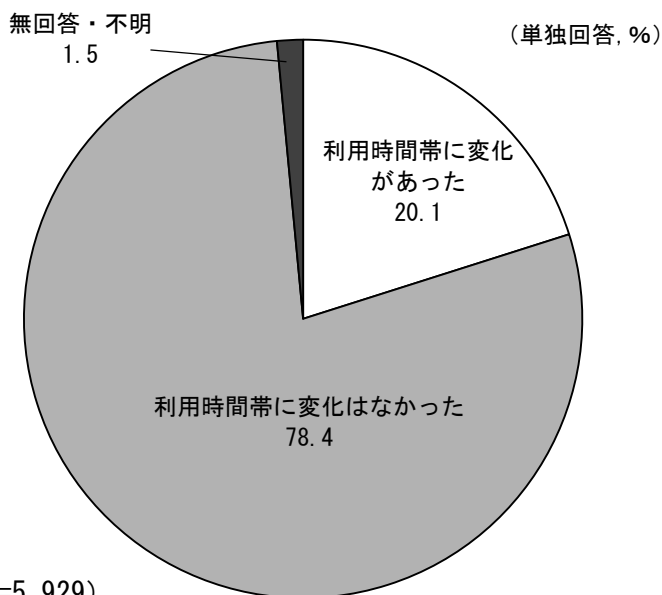
(複数回答, %)



コロナ前後の利用時間帯を個別に比較した場合、「利用時間帯に変化はなかった」人が78.4%、「利用時間帯に変化があった」人が20.1%となっています。

コロナ前後の利用時間帯の変化

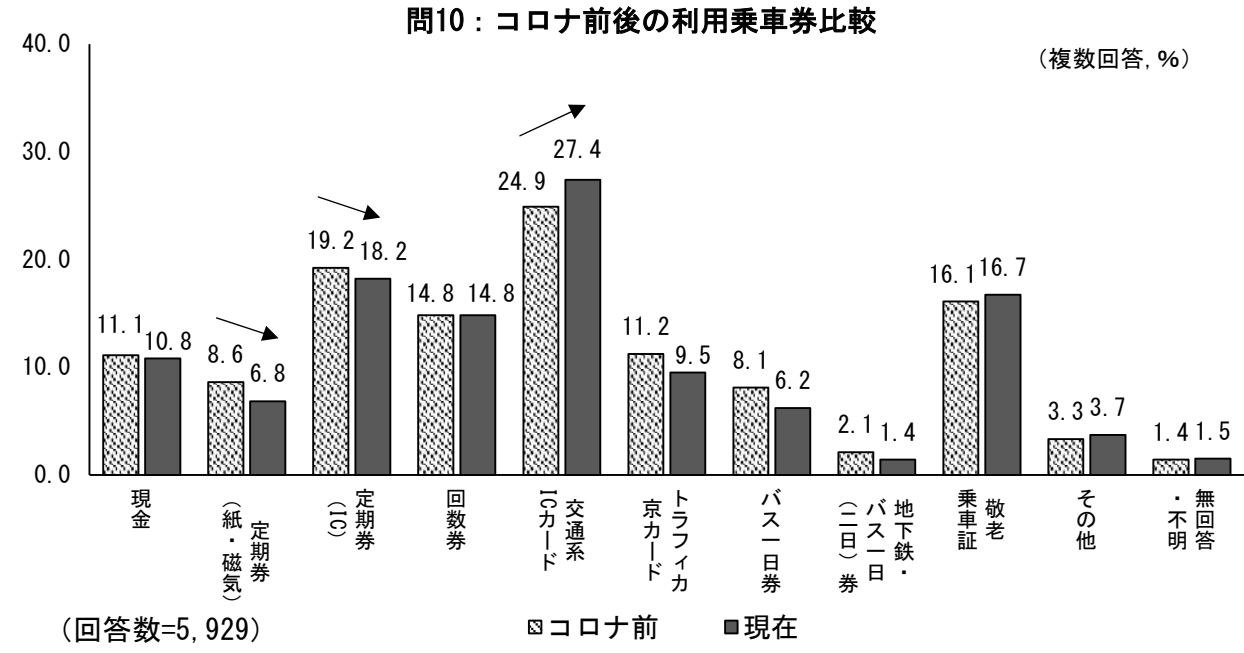
(単独回答, %)



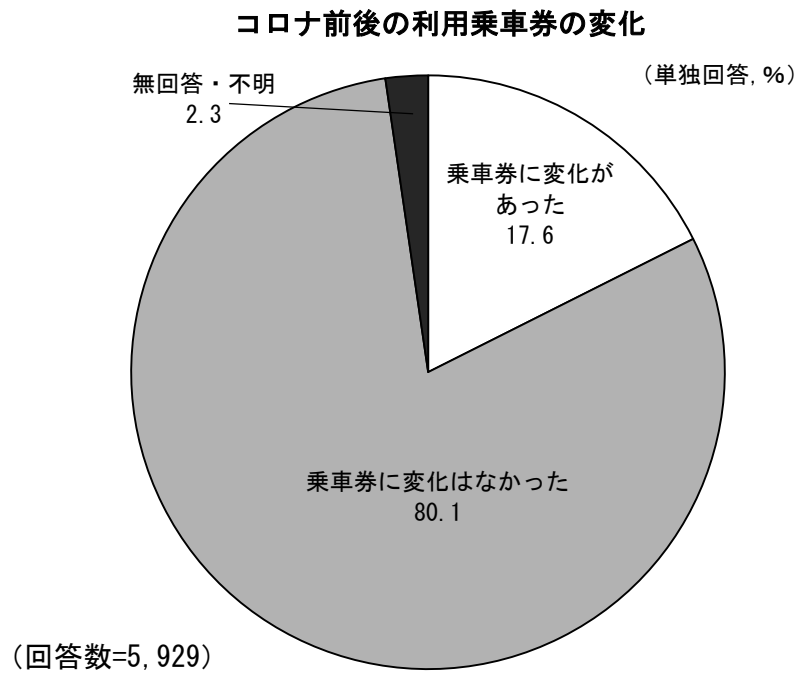
問 10 市バスを利用される際の乗車券について、現在とコロナ前、それぞれ教えてください。

「現在」の利用乗車券について、「交通系 I C カード」が 27.4% と最も多く、次いで「定期券 (I C)」が 18.2%、「敬老乗車証」が 16.7% となっています。

「コロナ前」と比較すると「定期券 (紙・磁気)」、「定期券 (I C)」の利用割合が減少しており、テレワーク等の浸透による影響が出ているものと思われます。



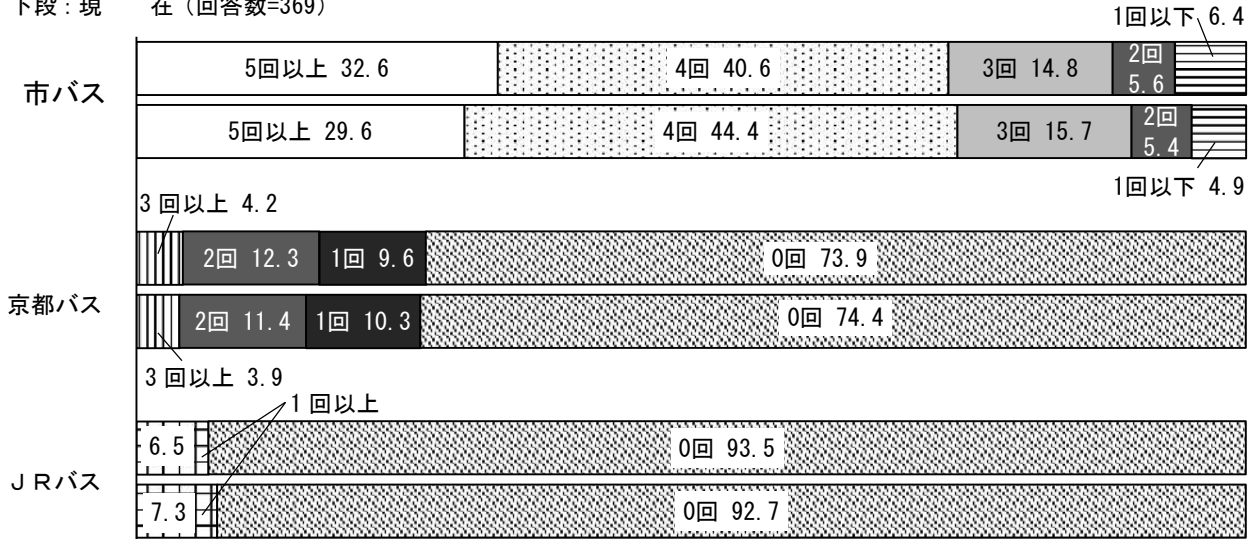
コロナ前後の利用乗車券を個別に比較した場合、「乗車券に変化はなかった」人が 80.1%、「乗車券に変化があった」人が 17.6% となっています。



問 11-1・3 「バス一日券」を利用される際、市バス及び他の公共交通機関をそれぞれ何回利用されますか(観光目的除く)。

市バスは、コロナ前後ともに「4回」が最も多く、約4割を占めています。他の公共交通機関も含め、コロナ前後で、利用回数に大きな変化は見られませんでした。

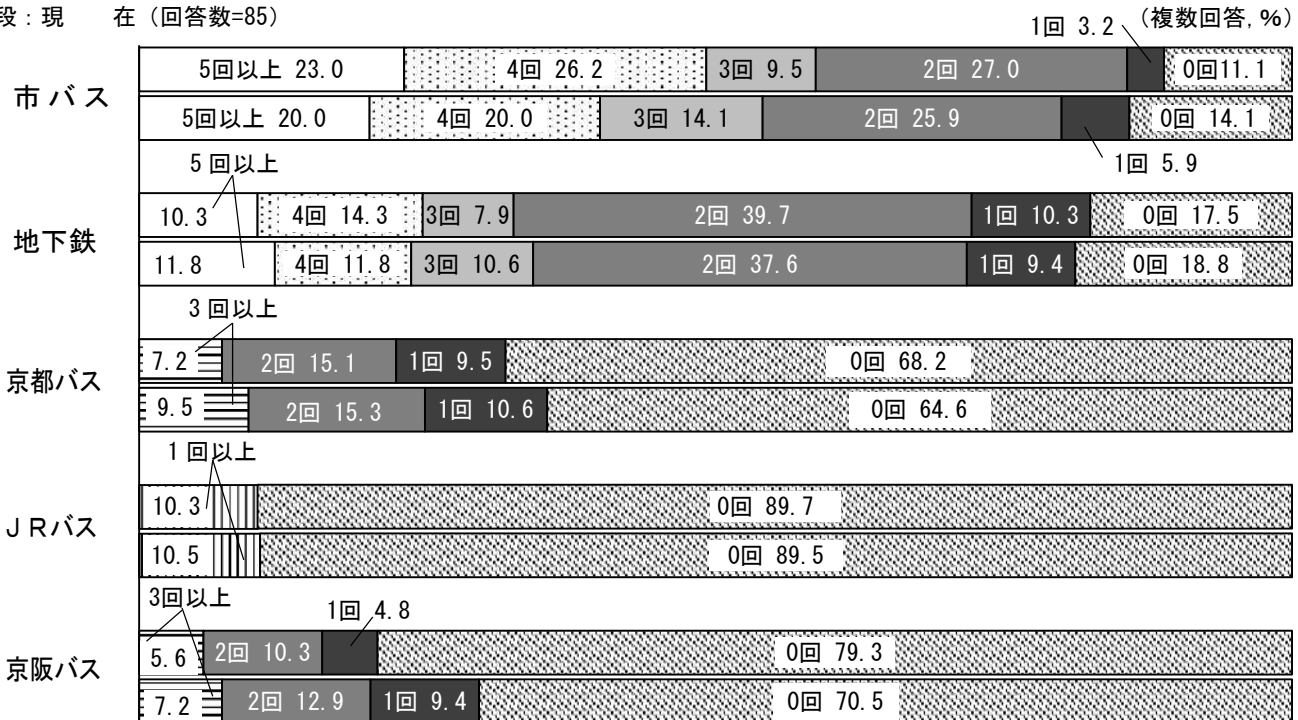
上段：コロナ前(回答数=480) 問11-1・3：コロナ前後のバス一日券の利用回数比較 (複数回答,%)
下段：現 在(回答数=369)



問 11-2・4 「地下鉄・バス一日(二日)券」を利用される際、市バス及び他の公共交通機関をそれぞれ何回利用されますか(観光目的除く)。

市バスは、コロナ前後で利用回数に変化はあるものの、「2回」が最も多くなっています。地下鉄も同様に「2回」が最も多く、約4割を占めています。他の公共交通機関は、京都バス、京阪バス、JRバスの順に御利用者が多くなっています。

上段：コロナ前(回答数=126) 問11-2・4：コロナ前後の地下鉄・バス一日(二日)券の利用回数比較 (複数回答,%)
下段：現 在(回答数=85)



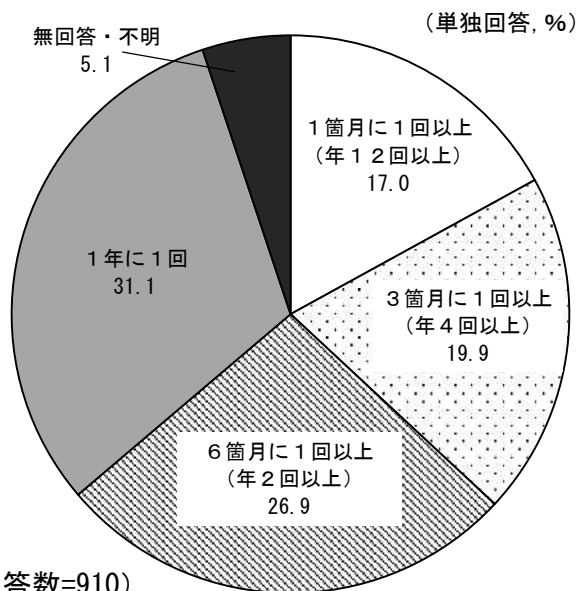
(イ) 観光・修学旅行の御利用状況 (問 12)

問 12-1 過去1年間で京都を訪れた回数を教えてください。

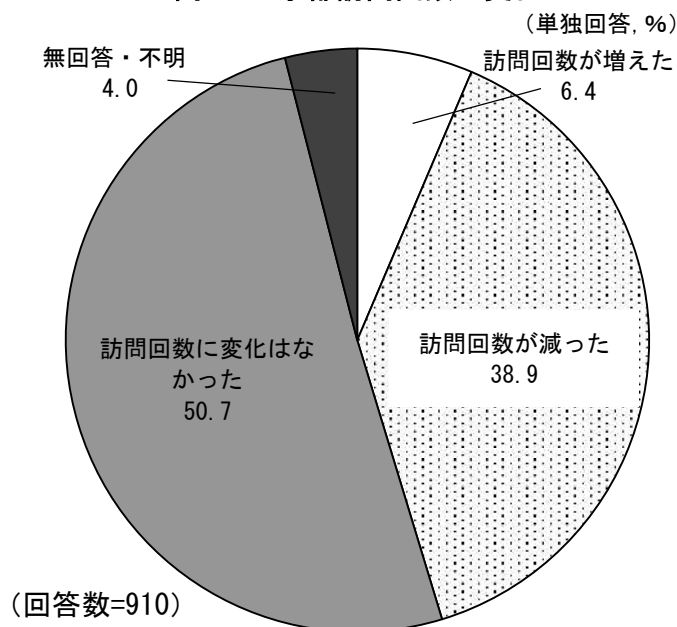
問12-2 コロナ前と比較して、京都の訪問回数に変化がありましたか。

京都への訪問回数は「1年に1回」が31.1%と最も多く、次いで「6箇月に1回以上(年2回以上)」が26.9%となっています。コロナ前と比較して、約4割の方が、京都への「訪問回数が減った」と回答されています。

問12-1：過去1年間の京都訪問回数



問12-2：京都訪問回数の変化

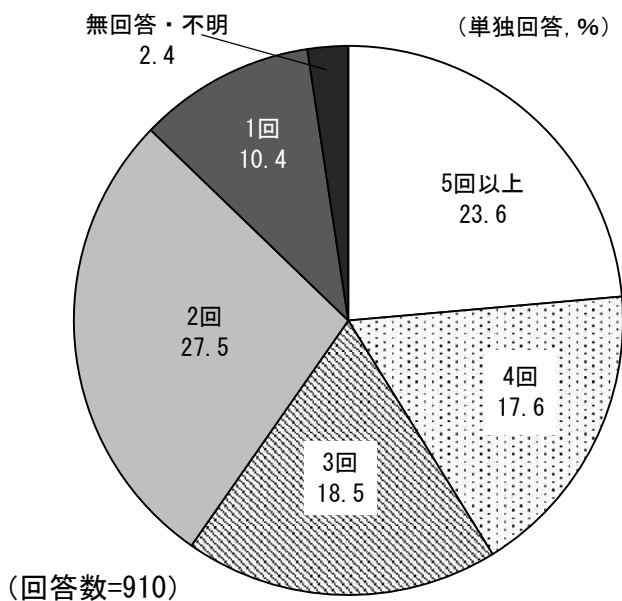


問 12-3 1日に利用された市バスの乗車回数を教えてください。

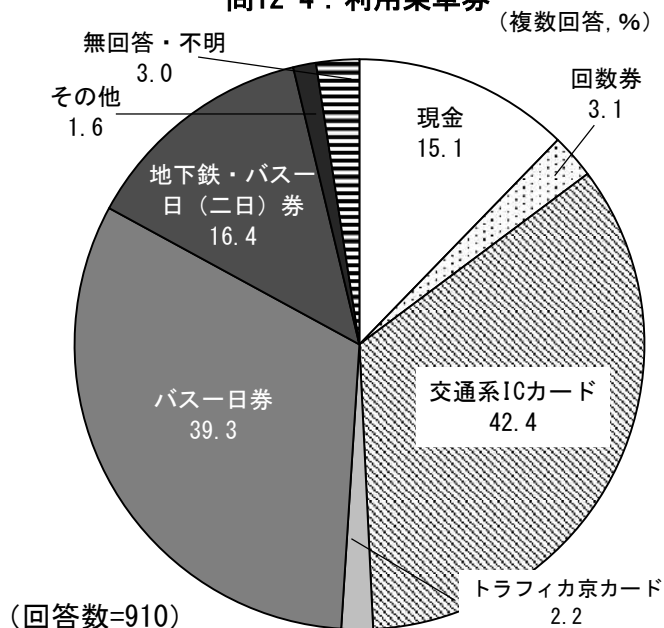
12-4 市バスを利用された際の乗車券を教えてください。

1日当たりの乗車回数は「2回」が27.5%と最も多く、次いで「5回以上」が23.6%となっています。利用乗車券は「交通系ICカード」が42.4%と最も多く、次いで「バス一日券」が39.3%、「地下鉄・バス一日(二日)券」が16.4%となっています。

問12-3：乗車回数/日



問12-4：利用乗車券



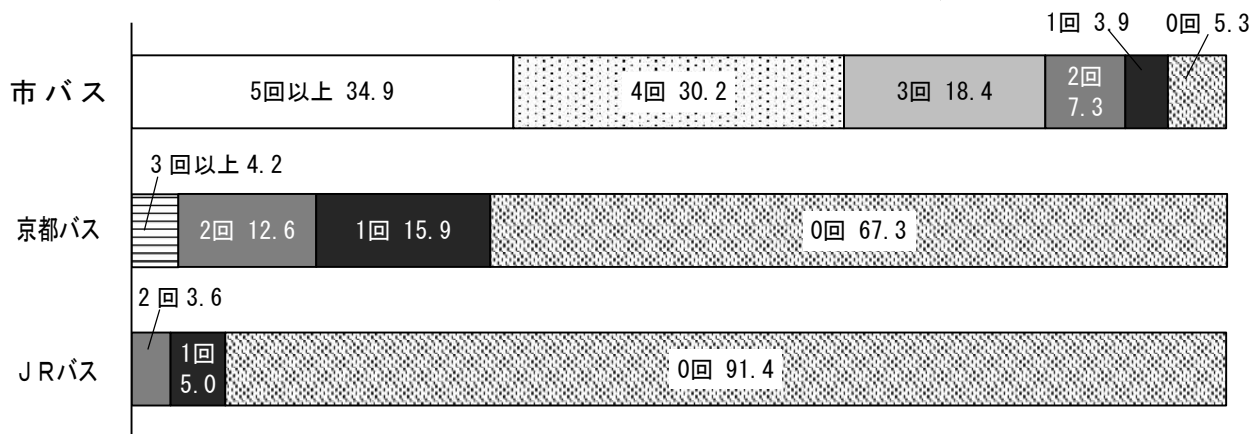
問 12-5 観光目的でバス一日券を利用された際、市バス及び他の公共交通機関を、それぞれ何回利用されましたか。

市バスは「5回以上」が34.9%と最も多く、次いで「4回」が30.2%となっており、4回以上の御利用が約6割を超えています。他の公共交通機関は、「2回」以下の御利用が大半を占めています。

(回答数=358)

問12-5：観光目的でのバス一日券の利用回数

(複数回答, %)



問 12-6 観光目的で地下鉄・バス一日(二日)券を利用された際、市バス及び他の公共交通機関を、それぞれ何回利用されましたか。

市バスは「5回以上」が28.9%と最も多く、「4回」、「3回」、「2回」がそれぞれ2割程度となっています。地下鉄は「2回」が34.2%と最も多く、次いで「3回」が18.8%となっています。

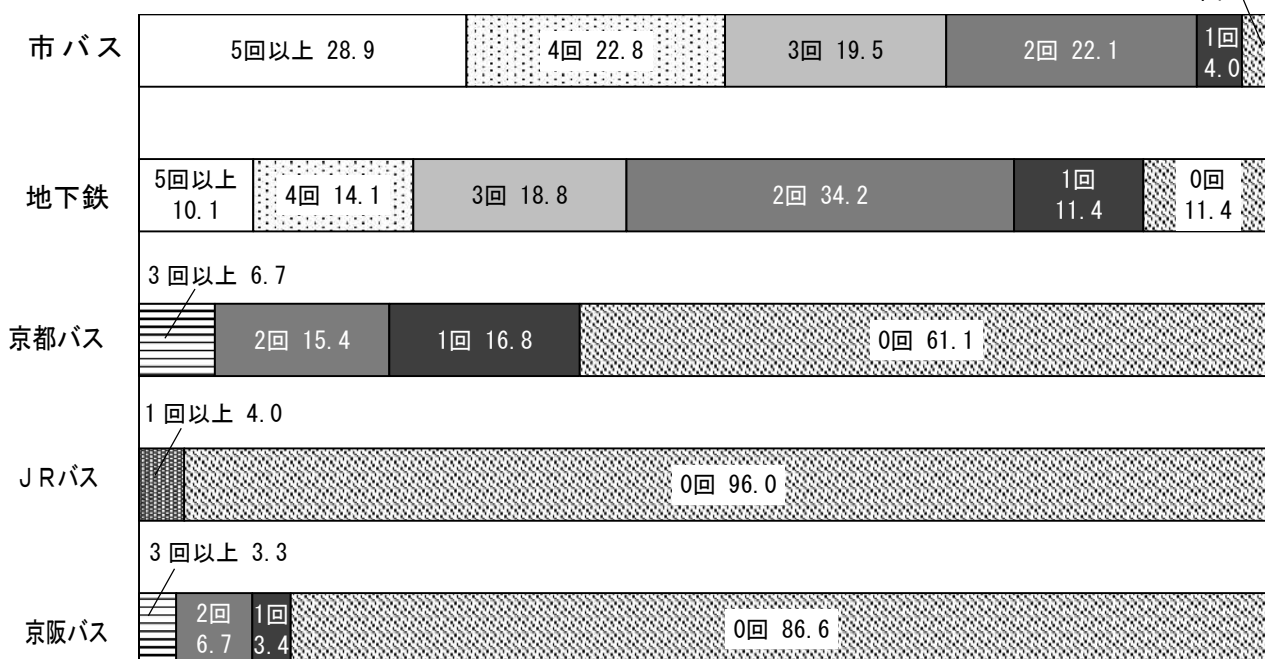
他の公共交通機関の御利用は、バス一日券同様、「2回」以下の御利用が大半を占めています。

(回答数=149)

問12-6：観光目的での地下鉄・バス一日(二日)券の利用回数

(複数回答, %)

0回 2.7

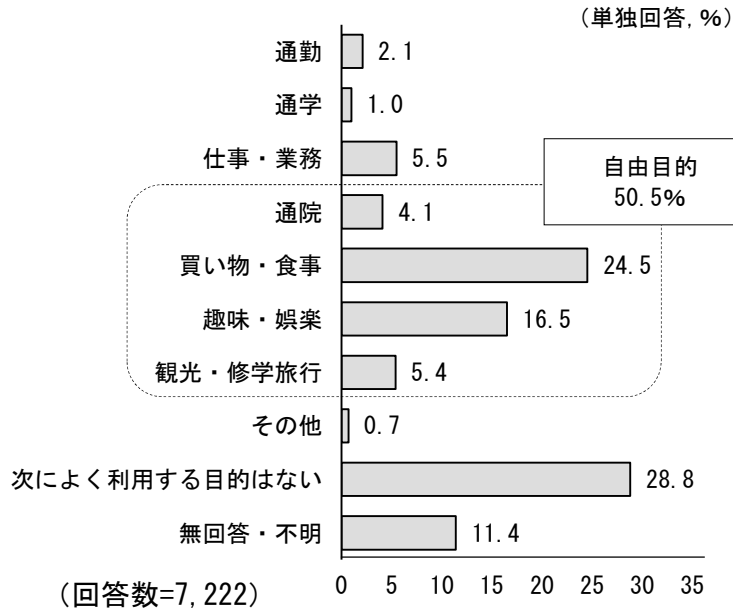


イ 次によく利用された目的での御利用状況（問 13）

問 13-1 「最もよく利用する目的」の「次によく利用する目的」を教えてください。

次によく利用された目的は、「次によく利用する目的はない」を除き、「買い物・食事」が 24.5%と最も多く、次いで「趣味・娯楽」が 16.5%となっており、自由目的が 5割を占めています。

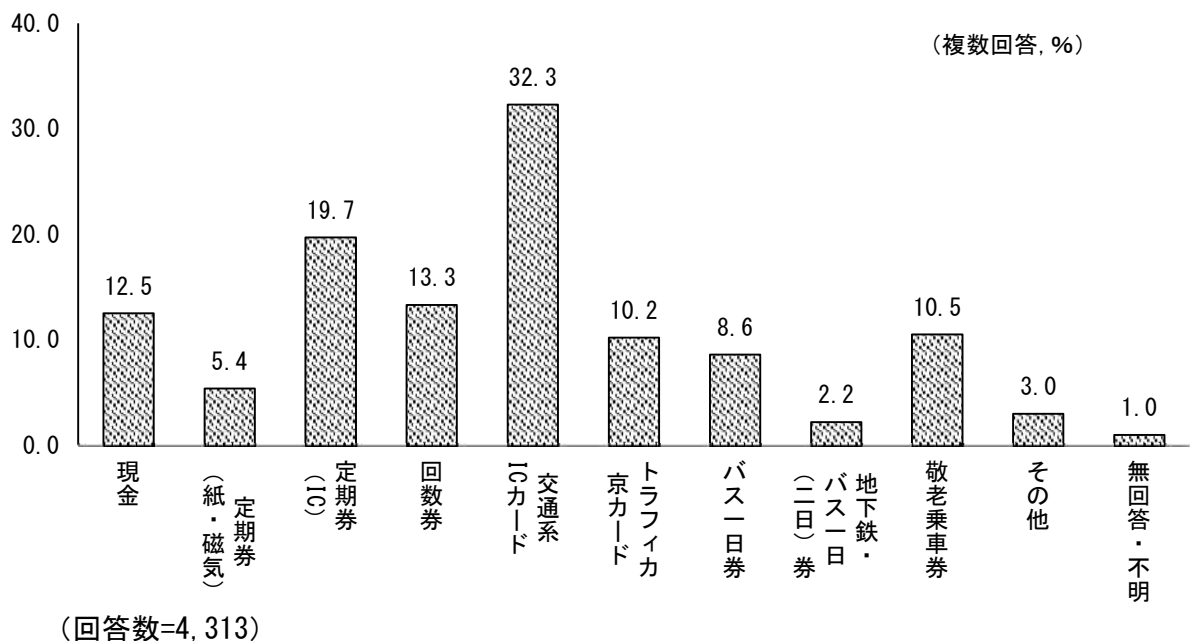
問13-1：次によく利用された目的



問 13-2 「次によく利用する目的」の際に利用される乗車券を教えてください。

次によく利用する目的の際に利用される乗車券は、「交通系 I Cカード」が 32.3%と最も多く、次いで「定期券（I C）」が 19.7%となっています。

問13-2：次によく利用する目的の際の乗車券



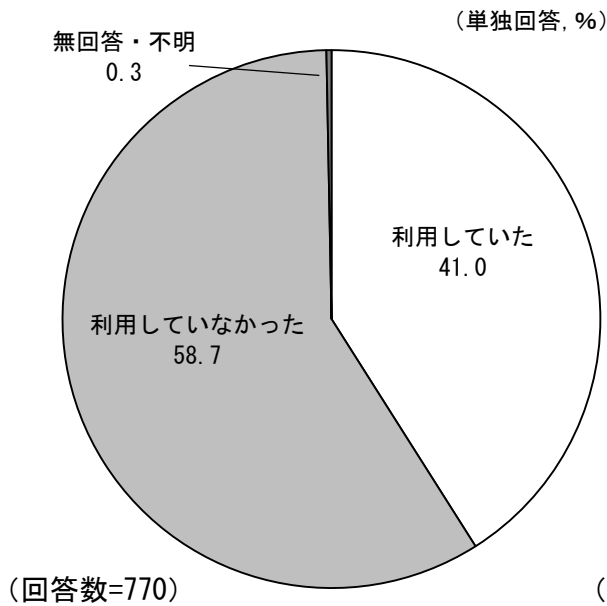
ウ 市バスの利用のない方の状況（問14～問17）

問14 コロナ前は市バスを利用されていましたか。
 問15 コロナ前は市バスを利用されていた場合、どれくらい利用されていましたか。

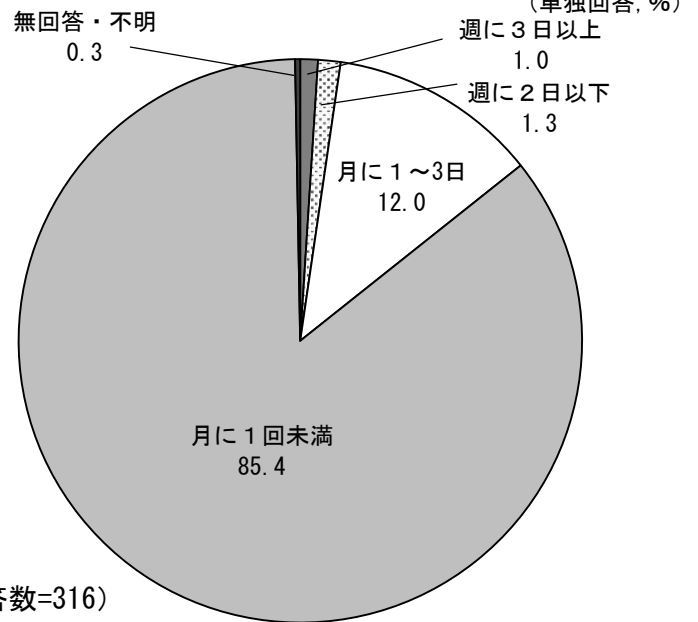
問5において、過去1年間「全く利用しなかった」と回答した人のうち、コロナ前は市バスを「利用していた」と回答した人は41.0%となっています。

利用頻度は、「月に1回未満」が85.4%、「月に1～3日」が12.0%となっており、日頃から御利用の少ない人が大半を占めています。

問14：コロナ前の市バスの御利用状況



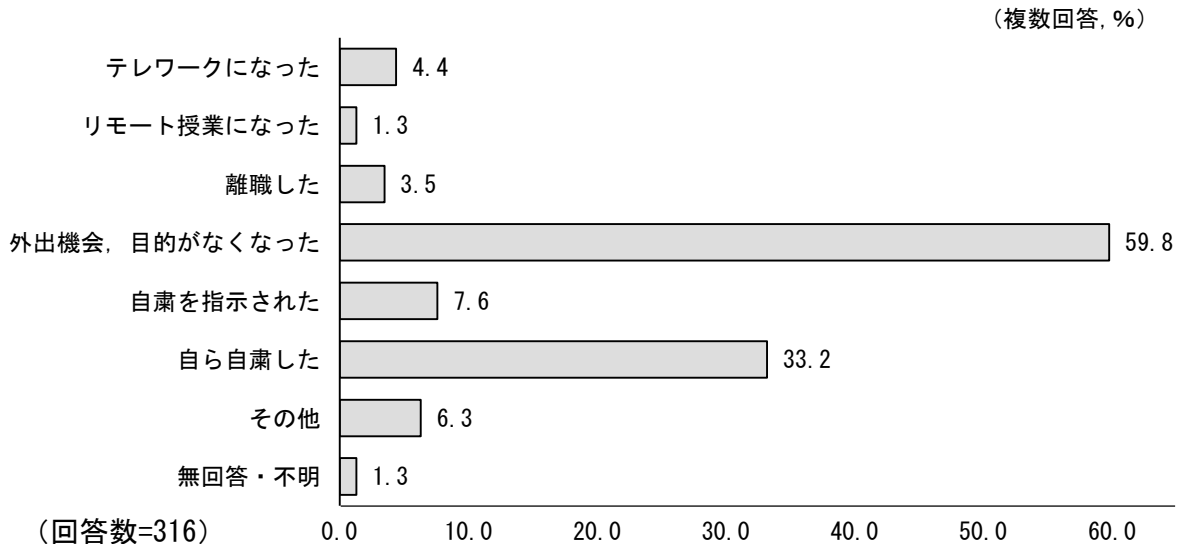
問15：コロナ前の市バスの利用頻度



問16 現在、市バスを利用しなくなった理由を教えてください。

問14において、コロナ前は市バスを「利用していた」と回答した人の、現在は市バスを利用しなくなった理由としては、「外出機会、目的がなくなった」が59.8%と最も多く、次いで「自ら自粛した」が33.2%となっています。

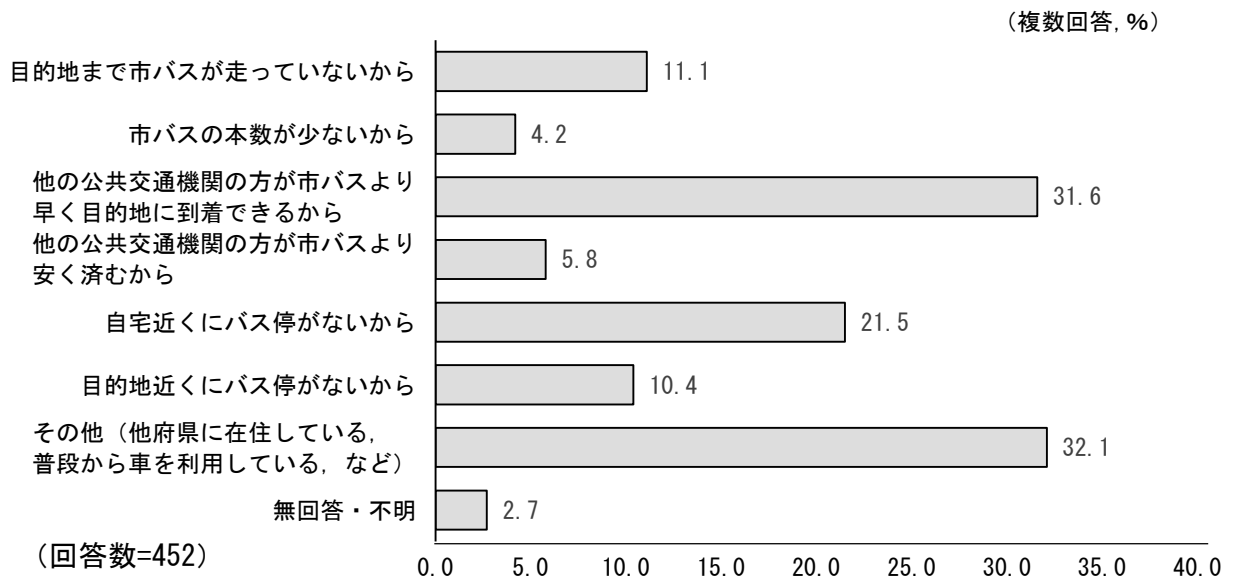
問16：市バスを利用しなくなった理由



問 17 市バスを利用しなかった理由を教えてください。

問 14 において、コロナ前から市バスを「利用していなかった」と回答した人の、市バスを利用しなかった理由としては、「その他（他府県に在住している、普段から車を利用している、など）」が 32.1% を占め、次いで「他の公共交通機関の方が市バスより早く目的地に到着できるから」が 31.6% となっています。

問17：市バスを利用しなかった理由



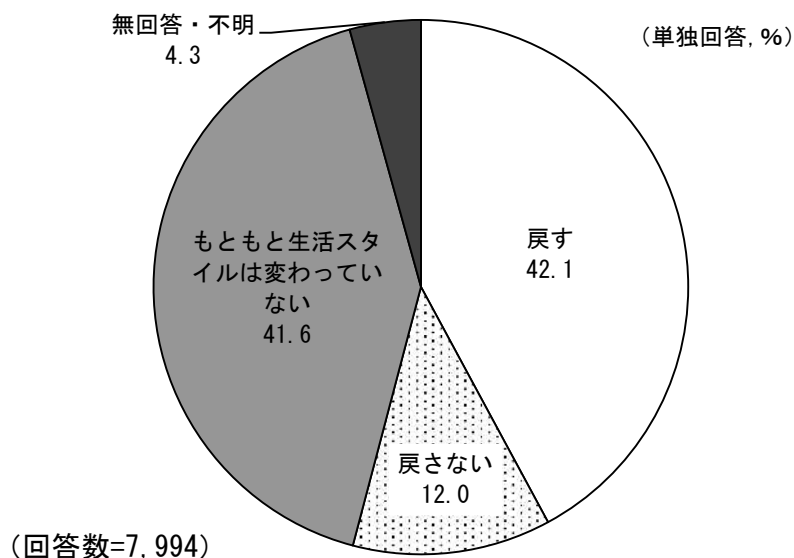
(3) コロナ収束後の生活スタイル（問 18）

問 18 新型コロナウイルス感染症が収束し、社会全体が落ち着いたら、元の生活スタイルに戻りますか。

「もともと生活スタイルは変わっていない」人が 41.6%，コロナ収束後に元の生活スタイルに「戻す」と回答した人は 42.1% となっています。

なお、元の生活スタイルに「戻さない」と回答した人が 12.0% おられ、約 1 割の方がコロナ収束後も新しい生活スタイルのままという結果となりました。

問18：コロナ収束後の生活スタイルの変化



(4) 乗継割引について (問 19~問 20)

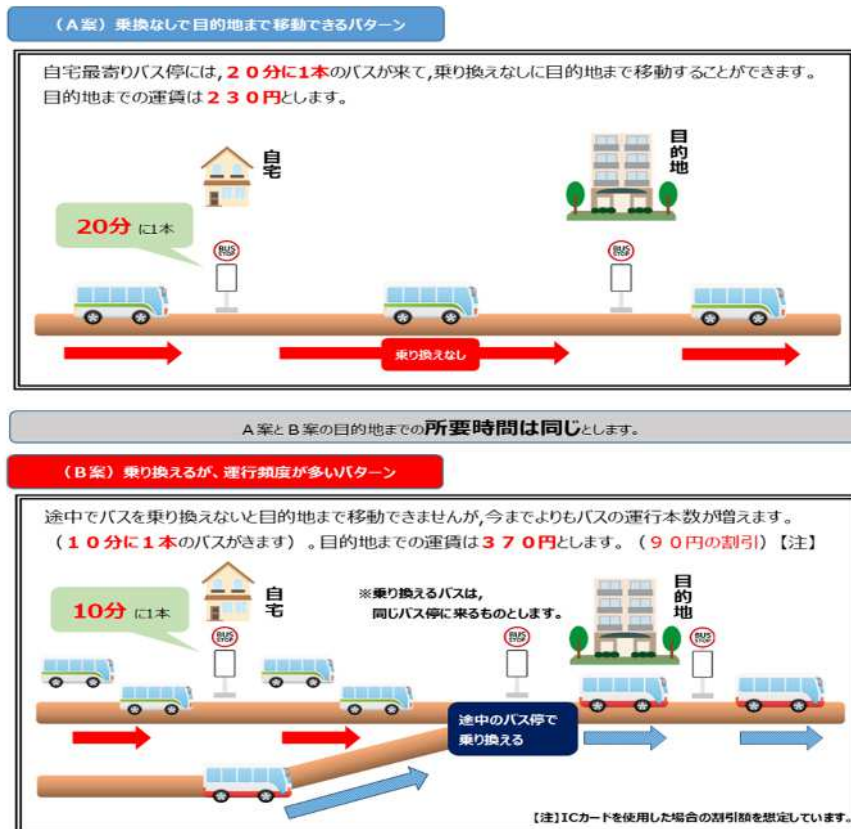
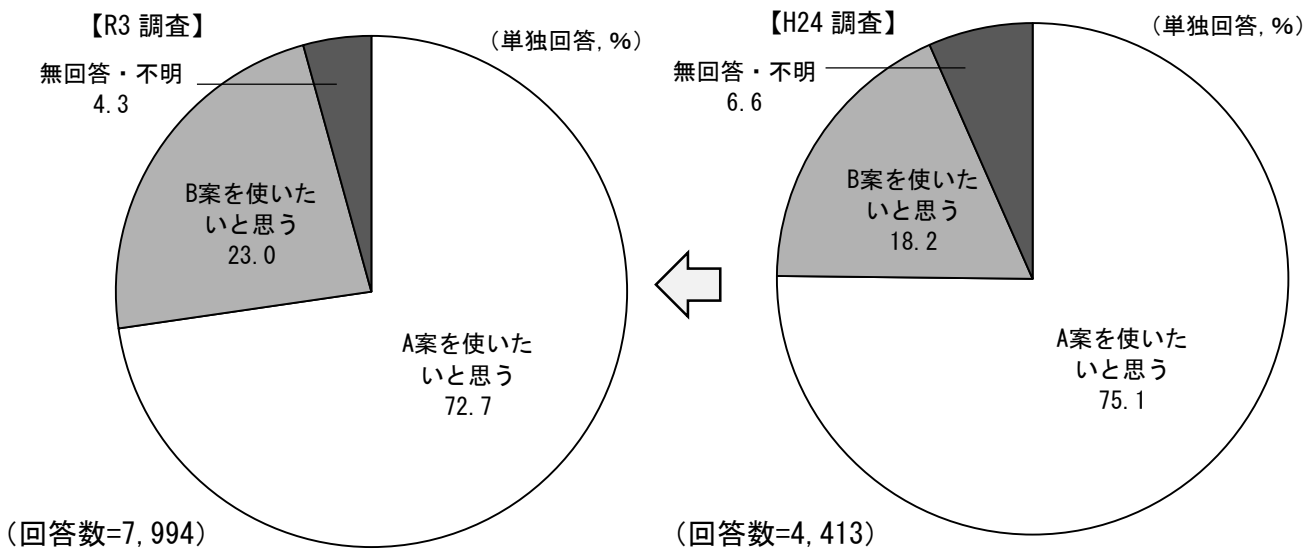
問 19 仮に京都市内を市バスで移動する際、次に示すような条件の場合、あなたはどちらを選びますか。

A 案) 乗換なしで目的地まで移動できる, 運行間隔 20 分, 運賃 230 円

B 案) 乗り換えて目的地まで移動する, 運行間隔 10 分, 運賃 370 円

A 案は、乗り換えずに目的地まで移動するもので、一方、B 案は、運行本数が多いが、目的地までの間で1度の乗換を行う案です。

「乗換なしのA案」を選んだ人が 72.7%、「乗換ありのB案」を選んだ人が 23.0% となり、運行本数が増えるよりも、乗り換えがなく、運賃負担が少ないA案を支持する人が多い結果となりました。なお、前回 (H24 調査) の回答と比較し、「乗換ありのB案」を選択した人の割合が若干増加しています。



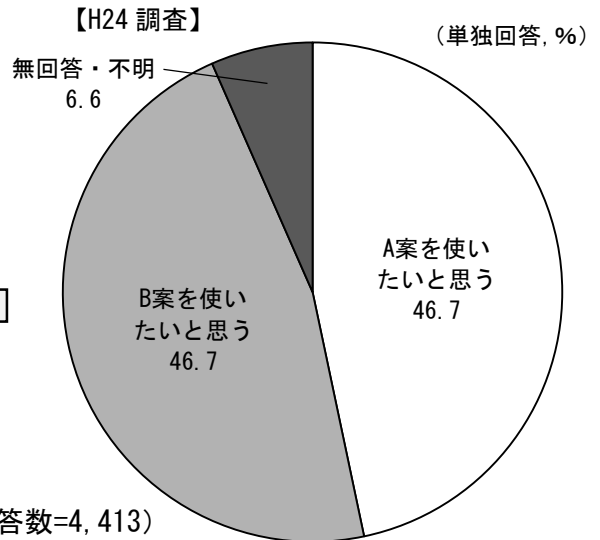
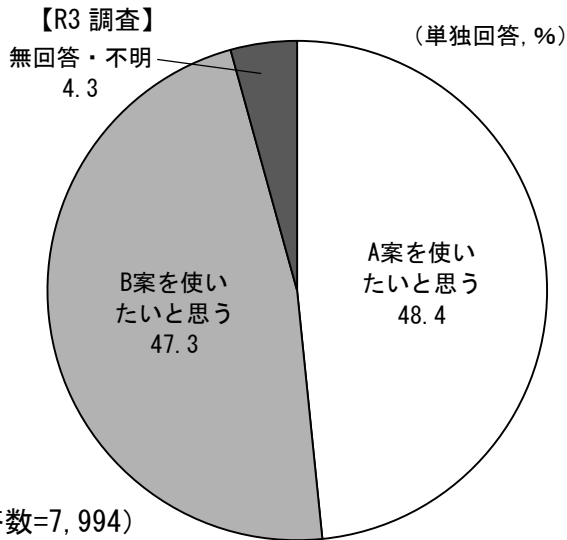
問 20 仮に京都市内を市バスで移動する際、次に示すような条件の場合、あなたはどちらを選びますか。

(運賃同額パターン)

A 案)乗換なしで目的地まで移動できる、 運行間隔 20分、運賃 230円

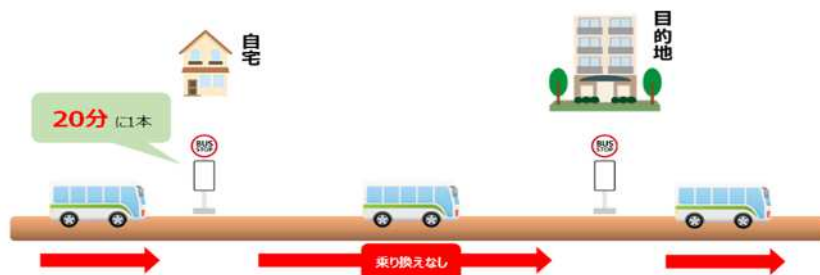
B 案)乗り換えて目的地まで移動する、 運行間隔 10分、運賃 230円

問 19 と同じ内容で運賃負担が増えない場合では、「乗換なしの A 案」を選んだ人が 48.4%、「乗換ありの B 案」を選んだ人が 47.3%となり、ほぼ同程度の結果となりました。なお、前回 (H 2 4 調査) の回答と比較し、「乗換なしの A 案」を選んだ人の割合が若干増加しています。



(A 案) 乗換なしで目的地まで移動できるパターン

自宅最寄りバス停には、**20分に1本**のバスが来て、乗り換えなしに目的地まで移動することができます。



A 案と B 案の目的地までの**所要時間は同じ**とします。

(B 案) 乗り換えるが、運行頻度が多いパターン

途中でバスを乗り換えないと目的地まで移動できませんが、今までよりもバスの運行本数が増えます。
(**10分に1本**のバスがきます)。

